



第3回福井CSTシンポジウムのご案内



～ 科学を伝える ～

主催 国立大学法人福井大学 福井県教育委員会

共催 福井大学大学院教育学研究科教育内容・教材開発研究会

後援 福井県中学校教育研究会理科部会 福井県小学校教育研究会理科部会

■日時：2014年11月29日（土）13:20～18:00（予定） 受付13:00～

13:20 13:30 13:50 14:50 15:00 15:40 16:40 17:55 18:00 19:20

開会式	事業報告	基調講演	休憩	ショートプレゼンテーション	ポスター・ワークショップ	パネル討論	閉会式	情報交換会
-----	------	------	----	---------------	--------------	-------	-----	-------

基調講演「科学を伝える～ノーベル賞授賞式に同行して～」

読売新聞大阪本社 宇治学研支局長 今津 博文 氏

パネル討論 「全国のCST・(理科) 教育関係者と“科学を伝える” ことに対して意見交換を行います。

パネリスト	今津 博文	(読売新聞大阪本社 宇治学研支局長)
	葛生 伸	(福井大学大学院工学研究科 教授)
	多田誠一郎	(上級CST(福井)・勝山市立勝山南部中学校 教諭)
	荒川 誠	(福井県教育庁 義務教育課 主任)
	永澤 明	(埼玉大学CST・科学の甲子園Jr推進委員長)
コーディネーター	栗原 一嘉	(福井大学教育地域科学部 教授)

■会場：福井大学文京キャンパス 総合研究棟 I 13階（福井市文京 3-9-1）

■研究発表のお申し込み

- 1) 締切：2014年10月31日（金）
- 2) 発表者：CST, CST養成プログラム受講者, 理科教育, CST事業関係者およびCST事業に関心のある方
- 3) 発表内容：CSTおよび理科教育に関連すること(養成・教材開発・実践・研修・プログラム・活動など)
- 4) 発表形式：ポスターまたはワークショップ形式の報告
(注1) 報告者全員に、要旨集を用いた2分間ショートプレゼンテーションをお願い致します。
(注2) 希望者には、可能な範囲で長机・椅子・電源等準備いたします。
- 5) 発表時間：2分間ショートプレゼンテーションを含むポスターまたはワークショップ 60分
- 6) 申込方法：福井CSTホームページ <http://sympo.cst-fukui.net/> を通じてお申し込み下さい。
- 7) 要旨原稿：A4 判 縦, 横書(様式は福井CSTのHPよりダウンロードして下さい。) 1～2 枚
- 8) 原稿提出締切：2014年11月12日（水）。<http://sympo.cst-fukui.net/> より投稿願います。
Pdf形式での原稿提出を推奨しますが、Word, 一太郎でもかまいません。

■参加のお申し込み

- 1) 締切：2014年11月12日（水）
- 2) 申込方法：福井CSTホームページ <http://sympo.cst-fukui.net/> を通じてお申し込み下さい。

■会費

- 1) シンポジウム参加費：無 料
- 2) 情報交換会参加費：一般4,000円・学生2,000円（当日、集金します。事前申込をお願いします。）

■連絡先

〒910-8507 福井市文京 3-9-1
 福井大学教育地域科学部 CST企画運営事務局 宛
 Tel&Fax: 0776-27-8693 (西沢) または 0776-27-9928 (CST企画運営事務局)
 E-mail: estfukui@f-edu.u-fukui.ac.jp



本シンポジウムは、平成26年度地(知)の拠点整備事業の支援を受け実施致します。

←左の余白は25ミリ

↑ 上(下)の余白は30ミリ

右の余白は25ミリ→

中学校教員のCST活動 題名は16ポイント、ボールド

単元「物のとけ方」における新教材の開発と実験講習会 副題は14ポイント使用

○越前太郎^A，福井次郎^B，小浜花子^C 氏名・所属は10.5ポイント使用。

FUKUI Taro, ECHIZEN Jiro, OBAMA Hanako

越前中学校^A，福井大学大学院^B，日本海小学校^C

【キーワード】 理科授業，粒子概念，教材研究，小中連携 5語以内

標題と本文は1行開ける。本文は，2段組とする。余白を上下30ミリ，左右25ミリとする。

1 目的

小学校5年単元「物のとけ方」における理科学習は，・・・。

(本文は10.5ポイント活字。1行当たりの語数と行数は，著者で決めて良い。)

鯖江(2011)は・・・と指摘している¹⁾。

2 方法

(1) 教材研究

粒子領域における教材研究を行った。授業時間数は表1に示す。

表1 学習指導要領中の教科の時間数

--

1) 教材開発の背景

これまでの実践および先行研究から以下の教材が利用されたり、提案されたりしている。

- ① ○○
教科書では，・・・。
- ② △△
勝山らは，・・・。

2) 教材開発の考え方

以上の調査と

(2) 実験方法

実験の過程は・・・・・・・・・・。

(3) 実験講習会の実施

平成24年〇月に、地域支援拠点(小学校)で・・・・・・・・。

3 結果

以上の結果は～～であった。

.....
.....

実験・観察中の様子を図1に示す。児童にとっては，操作性が向上し，・・・。



図1 実験中の様子

これらの結果を整理すると表2のようである。

表2 新教材と従来教材の比較

4 考察

単元「物の溶け方」における理科学習は，中学2年生での原子・分子の学習に繋げる単元の一つであり，・・・・・・・・。

附属学校園(2011)は，・・・・・・・・と述べている²⁾。

5 まとめ

本研究では・・・・・・・・のことが明らかになった。

参考文献

- 1) 越前次郎『小学校における粒子領域の学習展開』北陸出版(2011)。
- 2) 附属学校園「粒子分野における新教材の開発」，理科教材研究，Vol.1, No.2, pp. 34-56(2011)。

要旨は，1または2ページで作成のこと

↓ 下の余白は30ミリをとる。